

トランスジェンダーへの性暴力に係る意見

「TGWAP(Trans Gender Women Aids Program)」代表 大河りりい

<http://tgwap.main.jp/>

2014/11/25

1. トランスジェンダーについて

まず最初に、トランスジェンダー（生まれて来た時に割り当てられた性別を越境する存在）について、簡潔に説明させていただきます。日本では、しばしば性同一性障害とトランスジェンダーが混同されて用いられています。しかし、そもそも性別越境する存在を、「医療者視点からとらえた性同一性障害」と、「当事者視点からとらえたトランスジェンダー」とでは、精神障害の枠組みで捉えるか否かという点において、大きな違いがあります。

さて、この性同一性障害ですが、実は国際的に過去の言葉になりつつあります。2017年に、WHO（世界保健機関）による疾病分類が改訂予定ですが、その際性同一性障害という言葉が削除されることがほぼ確定しているからです。そうなれば、いよいよ日本の医学界も、この言葉をガイドラインから削除しなければいけないと言われていきます。こうした動きの背景には、トランスジェンダーを精神障害者扱いすることなどに反対する、当事者中心の国際的な脱病理化運動があります。

こうした事情から、現在国際的には、トランスジェンダーやトランスピープル（トランスジェンダーの人々）、トランス女性／男性（出生時に割り当てられた性別を越境する女性／男性）といった用語が一般的に用いられています。

2. トランスジェンダーの性暴力被害について

2014年、WHOはエイズ対策の新しいガイドライン¹⁾において、対策の鍵となる人口層として初めてトランスジェンダーの人々を含めました。さらに同年、UNAIDS（国連合同エイズ計画）は、エイズに関する概況報告書²⁾において、トランスジェンダー女性のHIV感染確率は、一般的な成人に対して49倍高いと報告しています。トランスジェンダーの人々は、差別や偏見から暴力を受けやすいことに加え、教育や就業の機会からの排除および身体変容に高額な医療費を要し、そのためセックスワークを行う人々も少なくありません。こうした要因から、トランスジェンダーの人々は性暴力の被害にも直面しやすく、HIV/AIDSについても脆弱な状況に置かれていると指摘されています³⁾。

3. 強姦罪からの性別カテゴリー撤廃について

上述のとおり、トランスジェンダーの人々は性暴力に直面しやすい人口層といえます。それでは、新たに「トランス女性／男性」などの性別カテゴリーを加えればよいのかというと、そうではありません。性別カテゴリーを用いることをやめなければ、この問題は解決しないのです。なぜなら、トランスジェンダーは包括的な概念に過ぎず、実際にはそれぞれの当事者によって性別越境の過程が異なるため、性別カテゴリーによって当該集団を適切に捉えることは困難だからです。外性器の形状だけを変える人、内性器まで摘出する人、ホルモン療法だけを受ける人、ホルモン療法も手術療法も受けなくて戸籍名だけを変更している人、身体変容は済ませても戸籍の性別は変更していない人、戸籍名も戸籍の性別も変更している人、様々な事情から身体変容も戸籍の変更もせずに異性装のみをしている人など、枚挙にいとまがありません。そのため、強姦罪においてトランスジェンダーのことも踏まえて考えるのであれば、

性別カテゴリーを撤廃する他に手はありません。

4. 性交類似行為について

とりわけ、トランス女性のセックスワーカーの間では、肛門性交はアナルセックスとして広く知られています。彼女たちの多くは膣を持たないため、一般的な性的サービスとして、アナルセックスを提供しています。同様に、口淫はフェラチオとして広く知られ、一般的な性的サービスとして提供されています。こうした性交類似行為は、性的サービスとして提供している場合であっても、相手の強引な行動によって出血や嘔吐、あるいは精神的苦痛をともなうことがあります。まして、同意のないままに行われる場合は、耐え難い身体的・精神的苦痛を受けることとなります。そのため、膣性交に限らず、性交類似行為についても、強姦と同様な量刑とすることを望みます。

- 1) http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/128048/1/9789241507431_eng.pdf?ua=1&ua=1
- 2) <http://api-net.jfap.or.jp/status/pdf/20141107fact.pdf>
- 3) <http://www.undp.org/content/dam/undp/library/hiv aids/Lost%20in%20translation.pdf>